

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370102206		
法人名	医療法人社団 上野会		
事業所名	グループホーム にれのき荘		
所在地	熊本市龍田4丁目12-22		
自己評価作成日	平成23年2月16日	評価結果市町村報告日	平成23年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成23年3月1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>① ホーム内だけで過ごす事のないように行事を計画したり、敷地内の畑には季節ごとの野菜を少し栽培し、季節を肌や味覚で感じてもらう活動を行っています。</p> <p>② 家族との関係を重視し誕生日や日帰り旅行や花見には必ず呼び掛けをし参加して頂き、利用者のご家族が共に過ごせる機会を多く作るように取り組んでいます。</p> <p>③ 毎日、ラジオ体操や足の運動、歌にて身体機能低下防止に努めています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>熊本市郊外で周囲の住宅街にとけ込んだ和風作りのホームである。校区の変更を機に自治会への加入や子ども会の廃品回収に協力するなど、地域への働きかけが確実に効果をあげてきている。特にホームとして家族との関係作りを重要視しており、行事への参加呼びかけをはじめ毎月の支払い時にはホームに来訪いただくようにしている。楽しみ事として外食やお弁当持参での外出など家族も一緒に参加できるような機会を支援している。趣味や役割などの個別の能力を活かした支援やラジオ体操への参加呼びかけなど身体機能低下防止にも力を入れている。敷地内には家庭菜園が出来るスペースもあり、季節感や収穫の喜びが実感できるような環境整備もされている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所も、入居者も地域の一部であり一員である理念を作り毎朝の申し送り後、理念の唱和と共に荘内の目の付く場所5ヶ所に掲示し意識の統一に努めている。	理念は玄関やリビングなどの目につく所に掲げ、また毎日朝礼時に理念を唱和し共有を図っている。日々理念にそったケアに努めミーティングや朝礼で振り返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区変更があった為自治会長や集会へ挨拶回りをしたり、地域の行事の防災訓練に参加したりと事業所の周知活動を行っている。又、地域の農家の方から野菜の訪問販売は継続し関係の保持をしている。	校区変更のため自治会長への挨拶や集会への参加、自治会加入により入居者と一緒に回覧板回しなど行っている。地域の農家の方が野菜の訪問販売に訪れ、コミュニケーションを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の集まりに定期的に訪問し、GHの説明や健康体操等実施し、コミュニケーションを取るようにしている。又、実習生を積極的に受け入れ、認知症ケア・グループホームケアの理解へ活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催し、ホームの近況や、研修、外部評価の結果報告等を行い、意見をもらい交流へと繋げている。又、会議録も掲示板にて関係者へ開示している。	定期的に会議を開催し入居者の状況やホームの活動報告を行っている。自治会加入やホームの畑について、防火についてや外部評価の結果の報告をし、意見をもらっている。討議内容はいつでも開示できるよう議事録も整備されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回、市の介護支援相談員の訪問がある。意見交換にて事業所の実情や入居者の様子を伝えることができる。	市の職員とは状況報告を行い、いつでも相談や情報交換を行うなどしている。毎月介護相談専門員の訪問を受け入れることで、入居者についての情報・発見もあり、サービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や荘内の勉強会を実施し、職員の共有認識を図り、身体拘束をしないケアに心がけている。日中は、すべての出入り口を開錠し自由に出入りが出来るようにしている。	研修会で身体拘束による弊害など理解している。日中は施錠せず、出入り自由となっており、入居者が出られる時は見守り中心で日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、外部の研修に参加し、持ち帰った内容は、他の職員へ伝達を行い意識付けを行っている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修がある時には、積極的に参加して、他の職員へ勉強会を開き理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際には管理者が十分時間を取り、説明及び質疑応答を行い家族の不安の解消に努め理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接支払いとしている為、最低でも月1回以上の面会があり、話しやすい雰囲気作りに努めている。年3回以上の家族参加行事の際にも、意見や要望を聞き早急に対応している。	ホームの行事に参加を呼びかけたり、面会時や毎月支払時にお便りを直接手渡し、意見を聞くようにしている。要望や意見がある時は早急に対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で、ミーティングや食事を共にする事で、意見や要望を聞くようにしている。	日常的なコミュニケーションから職員の意見を把握している。出た意見は事務長へ報告し改善を図るようにしている。行事には事務長も参加しホーム内の様子を把握するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や年2回の健康診断の実施にて職員の心身の健康状態の把握に努めている。 個々の努力は認め評価している。 明るく働きやすい職場に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には経験年数や個人レベルに応じて参加させてもらっている。 定期的な内部研修を行い、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や県で開催される定期的な研修会や勉強会に参加し、意見交換等の交流を図っている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始までに事前面談を行い、体験入居を実施する事により、心身の状態や本人の思いを聞き、安心に繋げた関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談、見学時に、今までの生活状況等、これまでの経緯について時間をかけてゆっくり傾聴し、不安や要望等受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に早急な対応が必要と判断した場合、他の事業所を紹介したり、一覧表を渡し広く情報を流す等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や朝の掃除は共同で行い、出来る範囲で得意分野を発揮して頂くようにしている。又、畑の草取りや収穫を共に行う等、収穫の喜びを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や体調の変化があった際には必ず報告を行っている。又、家族参加の行事にもほとんどのご家族に参加協力して頂き、共同で支援できている。植木市には、1名家族が事業所の車に乗車し一緒に楽しんだ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族同伴で、馴染みの美容室や、命日に墓参りに行かれる方や、法事や結婚式等の親戚の集まり等にも積極的に外出される方もおられる。	家族の協力を得ながら、お墓参りや年末年始の外泊・外出、慶弔の行事への出席などの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	情報を共有し、関係性に配慮している。心身の状態や気分、感情は日々変化しているので注意深く見守り、関係が悪化しないよう調整役となり、1日が楽しく過ごせるよう支援している。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、他の施設へ移られた場合も、度々面会に伺ったり、家族と連絡を取り合ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、会話や仕草等から思いや意向の把握に努めている。困難な方は、表情や反応で把握するように努めている。	入居者との日常の会話や関わりの中から、また家族からの情報収集から意向や希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご家族に聴き取るようにしている。 入居後も、入居者やご家族との日常的な会話の中から少しずつ把握に努め、日々のケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で一人ひとりの生活リズムの把握に努め、毎日バイタルチェックを行い、体調等の小さな変化も職員間で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聴き、関係者と話し合い、一人ひとりに添った介護計画を作成している。定期的なモニタリング、カンファレンスは、継続している。	入居者・家族の要望を把握したり、介護福祉士によるアセスメントをもとに全職員でカンファレンスを実施しプランを立てている。定期的なモニタリング、カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況や言動等の日々の暮らしの状況を個々のケア記録に記載し、全職員で共有し、日々のケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし看護師による健康管理の継続に努めている。又、継続的な通院支援を行っている。認知症ディサービスや、ショートステイの利用もできるようにしている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや、訪問理容や訪問マッサージを利用することで、職員以外の人と関わりを持ち、良い刺激となり潤いになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を行っている。受診の前後は情報を共有している。他科受診の際には、スタッフの通院介助の外、状況によってはご家族にも協力して頂いている。	入居者や家族の希望するかかりつけ医とし、専門科には家族の協力を得ている。状況に応じ職員が同行受診を行い、受診前後には状況を報告し情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師4人の配置と病院との兼務の看護師1名により、常に健康管理に留意している。又、日常の関わりでの情報や気づきは、いつでも報告・相談できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞う中で、早期退院に向け情報交換や相談に努めると共に、関係作りも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携体制については対応方針を説明し、同意を得ている。	「医療連携体制についての確認書」を作成しており入居時に説明し、同意を得ている。重度化した時は家族、かかりつけ医と話し合いホームとして対応できる最大の支援を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し備え、勉強会を行っている。定期的に消防署の協力を得て実践力を身につけて行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、夜間想定で入居者全員参加の避難訓練を実施している。訓練の都度、近隣へ根気強く協力の呼びかけを行っている。地域の避難訓練にも参加している。	年2回夜間想定避難訓練を入居者も参加して実施している。管理者は地域の防災クラブが実施した避難訓練に参加し、煙ドームも体験した。	昼間の訓練の実施や地域の方に災害時や緊急時の協力依頼を継続して取り組まれることも期待します。

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライドを損なわないような言葉使いや対応に努めている。特に排泄や入浴や、食べこぼしがあった際には他の人に気づかれないように配慮している。個人情報の管理にも留意している。	入居者の人格を尊重した対応を心がけ、プライバシーに配慮した言葉かけを行っている。記録類の保管は事務所でやっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢の中から自分で決める色々な場面を多く作っている。 (飲み物、する・しない、行くか・否か、服の選択)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、本人の意思や体調に合わせて、柔軟に対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に合わせ、馴染みの美容院へは家族同伴され。出来ない方には、訪問理容を利用している。定期的な、メナードボランティアの来訪もあり、お化粧やマニキュアも楽しまれている。服装等に関しては、外出時にも、自分で選択が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に応じて、買い物、下ごしらえ、片付けなど、入居者と共に行っている。一緒に採ってきた畑の野菜や家族等からの差入れの旬の物を取り入れ、職員も介助しながら同じ食事を一緒に摂っている。	職員が献立をたて、入居者の状況に応じて、買い物、調理、後片付け等と一緒にやっている。職員も同じ食事を摂り、会話をしながら楽しいひと時になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿を作り、食事内容や食材の記録を取り、定期的に管理栄養士にアドバイスをもらっている。情報の共有にて、おおまかな摂取量は把握出来ている。状況に応じて、水分、食事摂取量のチェック表を用いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員の方が洗面所にて出来るため、毎食後、声かけし見守りにて実施して頂いている。磨きが不十分な方には、就寝前に、義歯を外してもらい、スタッフが洗浄し、タフデントを使用し清潔保持に努めている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員の方が、昼夜、トイレで排泄されている。声かけや、サインで誘導する方には、さりげなく行い、プライバシーに配慮している。	ほとんどの方が自立しており、トイレでの排泄を基本としている。しぐさや時間をみて声かけ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給を心がけている。野菜を多く使用したメニュー作りを行い、便秘予防に心がけている。生野菜が嫌いな方には野菜ジュース等で補うようにしている。又、体操や散歩で運動を促し、なるべく自然排便に努めているが、強い便秘の時には下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じた入浴支援に心がけている。拒否の方には、時間を置いての声かけや、スタッフや、交替して声かけする、翌日にする等、柔軟に対応し、一人で入りたい人は、危険がない範囲で見守るようにしている。	入居者の希望に応じて柔軟な支援を行っている。入浴拒否がある時は、声かけに配慮しタイミングを図り、毎日沸かしているため翌日に変更することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた日中の活動で運動量の確保を行い、安眠できるよう支援している。行事や外出で疲れを感じた方には自由にソファやベッドで休息をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・用法・副作用の説明はすぐに見られるように事務室内に張って、全職員が把握できるようにしている。処方や用量の変更の時には、その都度全職員に伝わる体制をとっている。服薬時は本人に手渡し、又は口の中に入れる等飲み終えるまできちんと確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の得意分野で力を発揮して頂いて、役割や張り合いになっている。食後のコーヒーやココア、植木鉢の世話や生け花をしたりと、楽しみごとへの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時には、近隣の公園への散歩や広い敷地内の散歩は、日常的に支援して。月に一度は、全員で外出する機会を設け、夕食や手作り弁当を持参し、四季を肌で感じて頂いている。家族による個別な墓参り・温泉・パーマやカット・友人宅へと支援もある。外出する機会が多い。	日常的には近隣の散歩や買い物に出かけたり、家庭菜園の手入れなどができるよう支援している。季節ごとの花見や夕食、家族の参加もある日帰り小旅行など戸外に出かける機会を作っている。	



グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出の際には、可能な方には財布を持っていただき、見守りや介助で支払い援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や親戚からの手紙や年賀状等が来た際には、本人と共に開封したり、返事を出したりと、一緒に喜び、ポストカードにまとめて、いつでも読み返せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面所・リビングには季節の花や、ひな段、七夕の笹等を飾り、季節を目や香りで感じてもらえるよう心がけている。壁には直近の行事・日常の作業風景の写真・毎月の入居者の作品を張り、入居者同士や、ご家族・職員との共通の話題にするようにしている。殆どの方と朝の掃除を行い換気と感染防止に努めている。	季節の花や飾りつけ、壁には行事の写真を貼り話題づくりに役立っている。ソファや畳スペースなどがあり、それぞれ気のあった入居者同士話をしたりしている。入居者の方と掃除を行い、換気に努め快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下に長椅子やソファを置き、くつろげるようにして。気の合った者同士は、思い思いに過ごす事ができて、気に入った場所もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の家族と相談しながら、使い慣れたシンや仏壇、テレビの持ち込みもある。家族や昔の写真、置物等を飾り、自分の部屋が快適で安らげる空間となるよう支援している。	入居者の使い慣れたソファ、テレビや家族の写真、仏壇等が持ち込まれている。以前洋裁の仕事をしていた方は使い慣れた足踏みミシンを持ち込みもあり一人ひとりにあった居室づくりの支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	荘内はバリアフリーで、全てに手すりが設置されている為、自力歩行に役立っている。玄関から門まで自由に出入り出来るようにスロープと手すりを設置してあり、転倒防止に努めている。各居室に表札やのれん等を用い目印とし、自分の部屋を認識出来るよう工夫している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域や近隣の方に災害時や緊急時の協力依頼を継続的に取り組む必要がある	災害時や緊急時に近隣や地域の方々の協力体制を得るための接点を作る	① 運営推進会議で、地域の民生委員を通じ協力依頼を行う ② 自治会に加入済み 回覧板等を利用した顔なじみ作りを行う 定例会に参加し啓発活動を行う ③ 近隣との距離を縮める工夫をおこなう (例) 荘内での小催事を開催し、関係作りを行う	12ヶ月
2				④地域の催事や防災訓練などに積極的に参加し、関係を作る ⑤ 定期的な避難訓練時には、継続的に参加への声掛けをする	ヶ月
3				⑥ 避難訓練を夜間想定時などは実際の時間の近くとし、近隣の方が参加しやすい時間帯の設定で働きかける	ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。